

かけ橋

まだ見ぬ君へ…

今回は、地域社会から国際社会まで、幅広い範囲での奉仕活動を繰り広げている国際ソロプチミスト富士の皆さんを紹介いたします。

国際ソロプチミスト 富士

国際ソロプチミストは、一九二一年にアメリカで結成された、世界最大の社会奉仕団体。管理職、専門職についている女性の世界的組織で、人権と女性の地位を高める奉仕活動を行っています。

富士クラブは、一九八〇年に県内で五番目のクラブとして誕生。活動の基本コンセプトを「輝いて奉仕活動・気高く美しい富士山のように」とし、富士見高校吹奏楽部、吉原高校JRCなどへの活動支援や、芙蓉会みどり園への乳幼児検診慰問を行っています。また、福祉まつりやチャリティーバザーの収益金で、公共施設や福祉施設への物品寄付なども行っています。

対外援助としては、発展途上国の若い女性に教育と職業訓練を提供する資金の支援や、少数民族や難民への生活支援など、幅広く活動をしています。

会長の平柳富士子さん（中里）をはじめ理事会の皆さんは、「クラブができたばかりのころは、



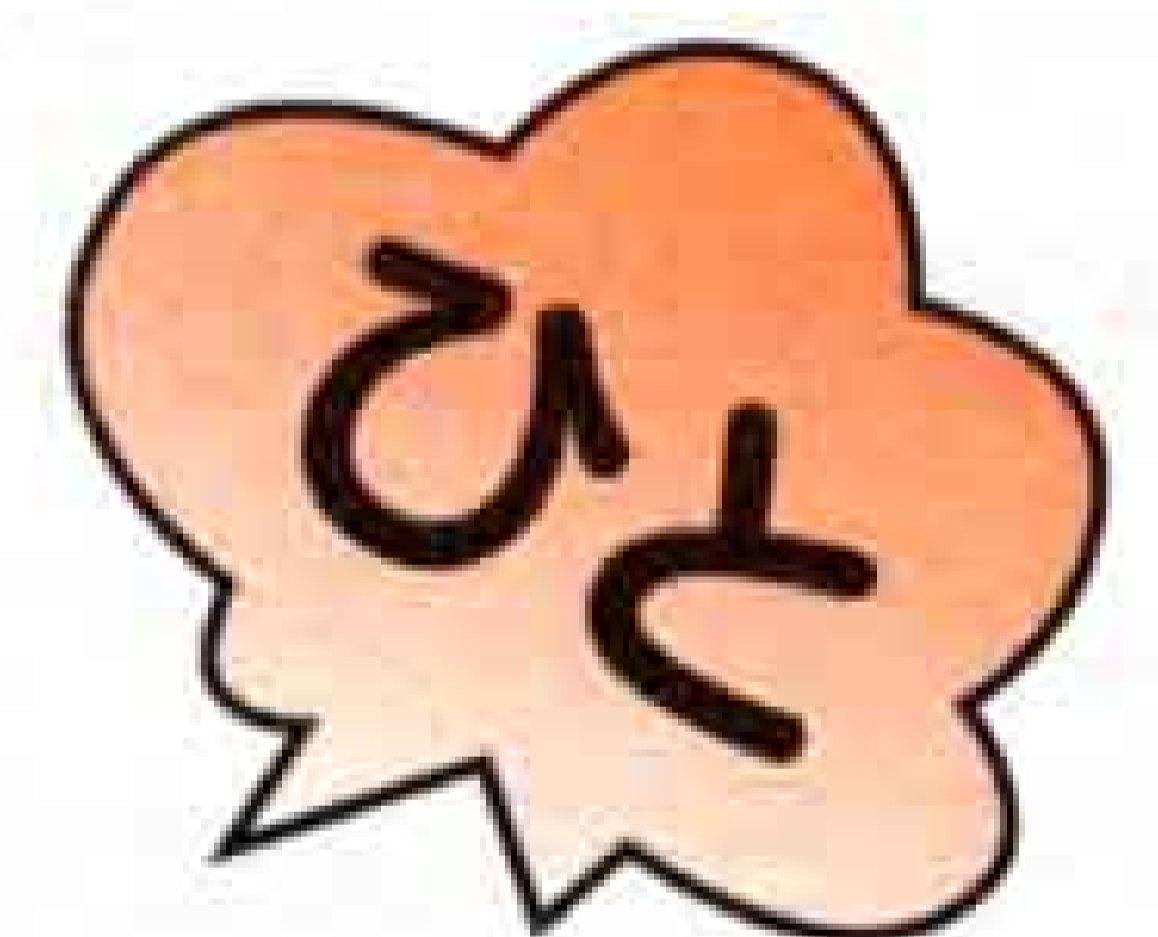
▲今期の理事会メンバーと歴代会長の皆さん

クラブの名前も覚えてもらえず、どんな活動をしているのかあまり理解されていませんでした。しかし、さまざまな活動を通して、長い時間を経て次第に皆さんから理解されるようになりました。

昨年は、クラブができて二十周年を迎え、米の宮公園へのモニュメント寄贈などの記念事業を行いました。これからは、県下の全クラブと協力し、麻薬やエイズの撲滅運動などにも力を入れていこうと思っています。

会員の皆さんは、さまざまな職を持った人たちです。それぞれが持っている力を発揮して活動しています。一人一人の力は小さなものですが、数が集まれば大きな力となり、大きな事業を行うことができます。自分たちの職や経験を生かしながら、奉仕活動を通して地域に還元していきたいですね」と話してくれました。

※Junior Red Cross 青少年赤十字



富士山こどもの国で活躍中の
プレイリーダー

須永 力 さん
(今泉)

プレイリーダーの役割は、子どもが自由に遊べる環境をつくってあげること。そして、子どもが遊びに対して何を求めているのかを知るために、子どもたちとは常に同じ高さで接しています。

須永さんがプレイリーダーの仕事をはじめたのは十年前。小学校の先生になり、山の分校でのんびり過ごせたらいいなと思っていたとき、友達に誘われて東京都世田谷区の「プレーパーク」という冒険遊び場でプレイリーダーを始めのがきっかけです。遊び場で活動し、いろいろな子どもたちと接していくうちに、学校の先生という「大人」の立場から子どもを見る姿勢に疑問を持ち始め、子どもと同じ側から子どもにかかわっていききたいと思うようになりました。

須永さんは「今の子どもたちは、常に大人の目が届き過ぎていて、自由な時間や居場所がな



いのがかわいそうですね。遊びはもともと『自由』でなければ遊びとは言えませんが、こどもの国では、子どもがあまりのままでいられる場所と時間を保障してあげたいと思っています。

自然の中で自由に遊べる公園は、県立公園としてはこのこどもの国が初めて。ここがきっかけとなり『自分の責任で自由に遊ぶ』ということの大切さを多くの人に知ってもらい、地域にも子どもが自由に遊べる場所がふえていくといいですね。遊び場づくりに対して、行政からも積極的に力を貸してもらえたらとてもうれしく思います。

仕事としてだけではなく、いくつになっても、どこにいてもプレイリーダーでありたいと思います。自分の生き方として、本物の遊び、本物の自由を子どもたちに伝えることのできる大人でいたいですね」と話してくれました。